

分科会報告 E分科会

●テーマ：景観まちづくり

- 司会：仲谷美幸 (和歌山県建築士会、仲谷義和&設計工房)
- アシスタント：畠中みか、森本裕子 (ともに和歌山県建築士会)
- 出席者：39名



主旨

景観まちづくりは、単に景観だけでなく地域の環境を考えた住まい方で、地域共有の貴重な資産として次世代に引き継いでいくために成されるであろう。富山と滋賀での取り組みを通し、建築士としてどのように関わっていけばいいのを探っていく。

事例発表1 「高岡の建築とまちづくり」

コメンテーター：徳田義弘 (富山県建築士会)

土蔵づくりの町並みを残す活動を富山県建築士会高岡支部で始めて30年。その間、地域の宝物となる町並みを発見し、市民にアピールしていくとともに、活動を通して住民と協働で御車山7基の実測調査、地域活性化のイベント企画、土蔵の町並み整備などを推進。

また、2008年に「高岡の建築とまちづくりネットワーク」を組織し、都市模型の制作、ガイドマップによる高

岡の近代建築の紹介、平成の御車山デザインなどを行政・学生・職人・住民・建築士との協働で行ってきた。これらの活動は今も他地域へとつなげている。

事例発表2 「大津市における景観まちづくりの取り組みについて」

コメンテーター：柴山直子 (滋賀県建築士会)

結婚を機に大津に縁ができ、自宅となる明治5年築の大津町家の改修計画に着手。これをきっかけに1998年に国の重要伝統的建造物群保存地区になった滋賀県の五箇荘金堂地区の町並み相談員の仕事を受けて、景観行政に係わる。2005年、大津市が設置した大津百町・町家再生研究会に町家居住者として参加。それ以降、大津で町家保全などの景観まちづくりに関わっている。

大津では、2007年に中心市街地活性化法に基づく国の認定を得た基本計画によるまちづくりを進め、今年度

から2期目の5年をスタートさせているが、その三つの基本方針の一つに、大津町家の保全、再生、利活用による賑わい創出が含まれている。地域住民としてNPO大津祭曳山連盟が担い、旧東海道沿道の修景事業、登録有形文化財の支援や空き町家を貸したい人と借りたい人をマッチングさせる事業など、市やまちづくり会社と協働で進めている。

まとめ

景観まちづくりにおいては、地域住民を中心に、行政や専門家がともに「景観は地域の共有財産」との認識を持つことが大切である。地域の暮らしや文化を尊重した取り組みでなければいけないし、行政や各専門家との綿密な情報交換を必要とするものである。

建築士はコミュニティアーキテクトとしての役割を担い、地道できめ細やかな信頼関係の構築に努め、息の長い活動をしていく必要があるだろう。



●富山県の事例発表風景



●滋賀県の事例発表風景



●高岡近代建築マップ「かいどガイド」表紙



●「大津百町 まち遺産マップ 大津町家探訪地図」表紙